

<パーソンセンタードケアの重要性>

認知症の方の言動は、原因となる疾患の影響だけでなく、ほかの要因と相互に作用する形で起こります。言動を引き起こす要因となる「5つの要素」を踏まえて接することで、その人の行動や感情の背景が見えやすくなります。

パーソンセンタードケアの実践

・認知症ケアマッピング

認知症の方の様子を科学的に観察・記録する評価ツールです。6時間以上の連続観察を行い、5分ごとに認知症の方の行動や感情、周囲の状況などを記録します。これにより、その人にとって『価値を高める出来事』と、『価値を貶める行為』を把握し、ケアの質の向上に役立てます。

・本人の視点に立つ

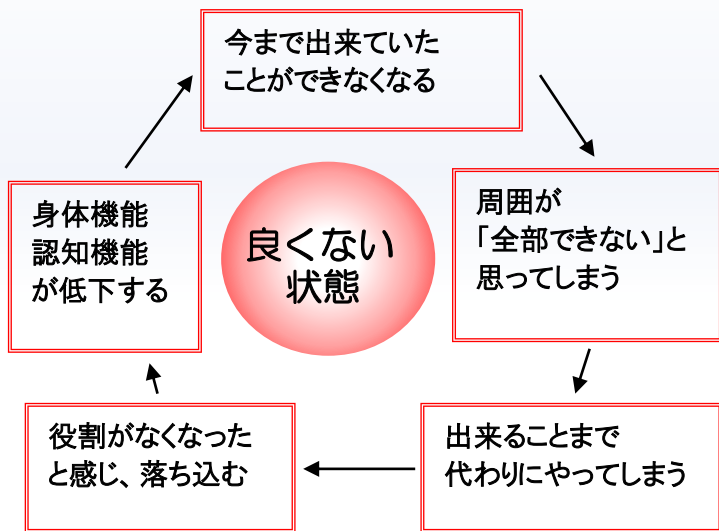
その人にとって「食事とはなにか?」「どう心地よく過ごしてもらおうか?」など、認知症の方の生活歴、性格、価値観、趣味などを深く理解し、本人の思いを代弁するケアの展開を求められます。

・具体的なアプローチ

共感の言葉をかける、五感に訴える、コミュニケーションの工夫

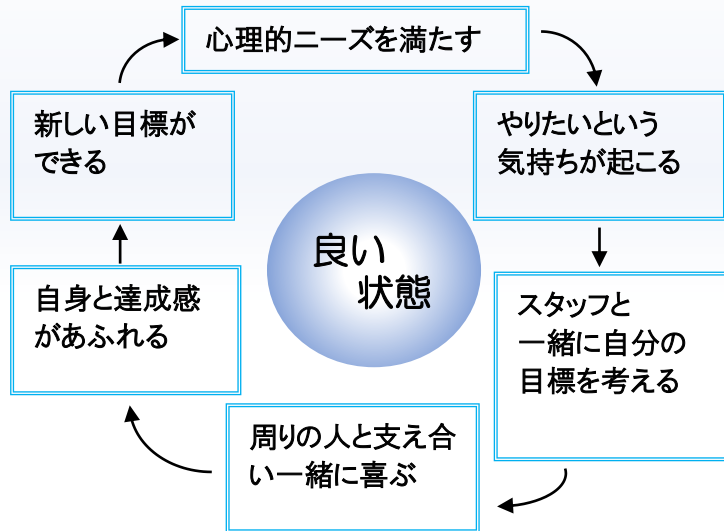
良くない状態と良い状態のケア

認知症の人の生活の質の低下や
良くない状態につながる悪循環



認知症高齢者のQOL低下につながる悪循環

本人の「やりたい気持ち」を引き出して
良い状態につながるパーソンセンタードケア



本人の「やりたい気持ち」が生まれる

※残存機能を活かして、少しでも自分で出来ることをしてもらうことで、本人のやる気を引き出す。そうすることで、本人に自信が生まれ、できることが更に増えていくことにつながる。

パーソンセンタードケアには、認知症の方がとる行動の理由を知るだけでなく、それぞれの気持ち、つまり心理的ニーズ（自分らしさ・くつろぎ・結びつき・たずさわること・共にあること）を満たすことが重要になります。

まずは 言動の背景に目を向けることが大切です